



2025年9月8日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連合中国地協第 32 回定期総会

地域で横のつながりを強化し総結集を果たす

J R 連合中国地方協議会は、8 月 26 日、岡山国際交流センターにおいて第 33 回定期総会を開催し、向こう 1 年間の方針を決定した。会場には中国エリアのグループ労組を含めた各単組から 40 名超が集結した。

冒頭、中国地協を代表し石松大介議長（J R 西労組広島地本執行委員長）が挨拶に立ち、安全の確立、組織の強化・J R 連合への総結集、取り巻く環境の変化に伴う政策課題等について述べるとともに、激戦となった先の参議院議員選挙における広島選挙区への協力に謝意を述べた。



石松議長



今井事務局長

J R 連合からは今井孝治事務局長が出席し、安全はもとより、産業政策や組織の強化等の課題に対する認識を示すとともに、解決に向けた地域協議会活動の重要性に触れ、各地域・各級機関での継続した取り組みを呼び掛けた。

J R 西労組からは福本英治中央副執行委員長らが出席し、代表してあいさつした福本副委員長は、好調な万博輸送や最低賃金の引き上げに触れ、26 春闘を J R 西労組が牽引していく決意を示した。

議事では、大川達也事務局長（J R 西労組中央執行委員）から運動方針などが一括で提起され、亀山泰孝新事務局長（J R 西労組米子地本執行委員長）をはじめとする役員の選出も含め、すべての議案を満場一致で承認し、石松議長の団結ガンバロウで力強く会を閉じた。



なお、本総会には荻山市朗 J R 連合前会長が来賓として招かれ、豊富な経験に基づく講話を行い「労働組合こそ寛容性を失わないようにしなければならない。そこに参画することはとても大切であり、自分のためにも他人のためにもなる。周囲を巻き込みながら進めてほしい」と語りかけた。役員の若返りが進むなか運動を継承するとともにグループ労組との関係性を意識し、視野を広げていくことの重要性を確認し合った。